

# 施策評価表

京 都 府 南 丹 市  
作成日：平成22年7月13日

平成22年度(平成21年度実施)

評価施策名	6 にぎわいの市街地をつくる	施策CD	36	施策主管部	土木建築部	部長名	山内 明
政策名	第3章 人・物・情報を高度につなげる			施策関係部	農林商工部		

## 【施策の概要】

### 1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
区画整理進捗度	%	67.0	75.0	75.0	80.0	90.0	100.0
商工会会員数	人	843	850	798	860	880	900

○ 魅力あるまちとしての再生を図り、市内における商業の活性化を進める。

### 1 南丹市の現状(課題)

- 旧来からの市街地が空洞化し、その活性化のための取り組みを進めている。
- 定住人口の減少と高齢化、商業の低迷が進み、かつてのにぎわいを失いつつある。

#### ■ 市内の商店数と従業員数(卸売業・小売業)

	平成9年	平成11年	平成14年	平成16年	平成19年
商店数	541	526	464	452	427
従業員数	2,203	2,121	1,887	1,993	1,788

(現状)

・市内年間商品販売額 2,795千万円(平成16年)

### 2 対策をしなければどうなるのか

- 市街地の空洞化が更に進み、にぎわいを失う。
- 定住人口の減少と高齢化が進む。

### 4 それらを解決するために何をするのか

- ① 多くの人でにぎわう市街地を整備する。
  - ・土地利用の方向性を明確に定めた都市計画の推進
  - ・「都市計画マスタープラン」「緑の基本計画」の早期策定
  - ・各種土地区画整理事業の推進
  - ・駅前や駅周辺の整備
- ② 魅力ある商業の集積を促す。
  - ・市のシンボルとなる交流拠点の整備
  - ・暮らしの中心となる地域拠点の創出
  - ・空き店舗対策やイベント開催等への支援
- ③ 市内における商品販売額を増やす。
  - ・商工会などのまちづくり活動団体への支援
  - ・事業者への支援と育成活動の実施
- ④ まちなかにおける魅力ある公園を整備する。
  - ・市街地や住宅地における都市緑化の実施
  - ・公園の適切な管理、多様な世代の人々が楽しめる公園環境の充実

### 3 それは何故おきたのか

- 近隣市町や周辺部への郊外型大型店の出店や、インターネット等による通信販売の増加などにより、身近な地域の商業がさびれてきている。
- 商業の低迷と定住人口の減少、高齢化が、旧来からの市街地の空洞化に拍車をかけている。

## 【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(計画額)	千円	576,092	636,660	483,362	135,883	99,851
財源内訳	使用料・手数料	千円	0	69,800	0	0
	国・府支出金	千円	70,150	168,709	96,341	3,000
	地方債	千円	308,000	319,000	268,940	57,600
	一般財源	千円	197,942	79,151	118,081	75,283
職員従事人数	人・年	3.73	8.20			
人件費	千円	23,244	52,598			
事業費総額	千円	599,336	689,258			

## 【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 13 事業

単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
土地区画整理事業(内林町土地区画整理事業)	9,446	9,446	5,446
土地区画整理事業(本町土地区画整理事業)	432,003	13,603	15,403
土地区画整理事業(八木駅西・吉富駅西土地区画整理事業)	8,024	8,024	4,780

## 【前年度の評価】(要約)

### 【総合評価】

#### ① 目標の達成状況

区画整理の目標値は本町区画整理事業のみの数値であり、当事業は公共団体施行であることから、職員の努力と地権者の協力で計画的に推進できたものである。  
商工会員の目標人員については、達成できた、しかし、商業の現状を見ると商工会員の目標値の設定が少し高いように思われる。

#### 【改善の方向性】

##### ① 今後の方向性

経済不況の中、商業を取り巻く状況は大変厳しいものであり、経済の動向を見ながら状況判断が求められるとともに、行政支援をどこまでするのか、出来るのかが課題。

##### ② 各事業の対応

計画策定や審議会運営、また、安心安全のための雨水事業や公園事業については計画的に進める。

区画整理事業で、本町の区画については一日も早く完成する事が町づくりに繋がり、組合施行の区画整理は組合の意向を尊重しながら行政としては事業化に向け指導すると共に、どこまで行政支援が出来るかを検討する。

商業は人口減少や大型店舗の進出、更には消費者の購買動向の変化で、商店数の減少が見られ賑わいを取り戻すには、事業者の自助努力が必要、その中でやる気のある部分に行政として積極的に支援が必要。(賑わいの街づくりはまちづくりの大きな柱)

## 【評価を受けて取り組んだこと】

### 市民参加とビジョンについて

賑わいを取り戻すため、特定非営利法にぎわいコンソーシアム園部が、平成21年に設置され、その中で住民本位のまちづくりを共に進める。

### JR園部駅と中心市街地の連携について

バスなどの公共交通機関の充実が考えられるが、その事も今後検討課題

### 商工会助成

地域の活性化に繋がる取り組みが提案され実施されるなら、そのやる気のある部分に支援が考えられることから、今後の動きを見守る。

## 【今年度の評価】

### 【総合評価】

#### ① 目標の達成状況

本町区画整理については、課題も残しながらではあるが計画的に推進できている。

#### ② 目標値や施策の考え方の見直し

商工会の目標値である会員数については、増加を見込んでいるが、現在の商工会を取り巻く状況を見る時課題目標となっている事から、今後見直しが必要。

### 【改善の方向性】

#### ① 今後の方向性

商業を取り巻く状況は一層厳しく我が市において商業の活性化を進めるため、行政支援がどこまで出来るのかを関係者と協議する中で方向を出す必要がある。  
園部の中心市街地に賑わいを取り戻すため、にぎわいコンソーシアム園部を中心に町の声に耳を傾け、賑わい創出のための事業を立案・実践を継続して進める。

#### ② 各事業の対応

計画策定や審議会運営は住民代表の声を計画に反映させる。

雨水排水は早期完成を目指し、事業を計画的に進める。

公園事業は平成22年度で一定整備が完了する。

本町区画整理はまちづくり計画と連携しながら、早期に完成をさせる。

組合事業の区画整理は、経済不況下で保留地の販売が出来ないという大変厳しいことから、行政支援がどこまで出来るかを検討する。

商店街の賑わいを取り戻すためには、事業者の自助努力も必要、その中で、必要な事業に支援をするもので、事業者主体の住民参加のまちづくりを推進する。